

平成29年度自己評価の課題についての平成30年度改善実施状況

1. 自己評価結果(検証報告)について

教職員に対して自己評価及び自分磨きチェックを実施した結果を取りまとめ検証した結果と留意すべき内容は以下のようになります。	
内容	平成30年度改善の取組
01.教職員は理念や教育目標に沿った計画に基づき保育に当たり、その都度、記録を取り考慮しながら保育に努めている。	
02.教職員の行事の取り組みについては、昨年に引き続き事前にもう少し段取りをスムーズに運べるようにする必要がある。	行事前に実施内容・担当・日程・天候の影響時の変更内容等を考慮したスケジュール表や進行予定表を作成し全員参加での検討を実施。
03.教職員は幼児理解に積極的に取り組み、個人記録にてらして個々に応じた援助ができています。	
04.教職員の園活動において失念や確認不足によるうっかりミスによる誤りの発生がある。	確実な伝達の為の相対による確認やダブルチェック、後で確認できるようにチェックリストや記録簿の利用などの実施。
05.教職員は規範を守り、指示に従い、自身の向上に努めている。	
06.教職員については良識や適性を持って責務を全うしているが、もう少し積極性や明るい雰囲気も必要。	積極的な行動の重要性の啓蒙や良い結果以外でも肯定感を持った指導などの実施。
07.教職員は保護者対応において親身な対応を誠意を持って対処している。	
08.教職員はこの地域での恵まれた自然環境・社会環境の中で様々な機会を増やす必要がある。	市の広報提示や周辺イベントのチラシなどの知らせや地域の情報の交換などを行う。
09.教職員は自己の向上を常に念頭に置き、自己研鑽を行う必要がある。	様々な研修や学習機会について通知や受講の勧めなどを行う。

2. 自己評価に対して今後取り組むべき課題

課題	対象領域	取り組み内容	平成30年度改善の取組
教育要領の大幅改定による基本的理解の不足	I. 保育の計画性	教育要領の解説書や外部研修の活用する。園内での解釈と実践方法を検討し教育課程への導入方法を検討する。	新教育要領の配布、代表者による教育要領に基づいた研修に参加し園内研修の実施。地区研修会の参加による解釈、実践方法の検討を行った。
幼児理解のための多面的に考察する力を向上する	II. 保育の在り方、幼児への対応 III. 保育者としての資質と能力	自分以外の価値観や見方を理解するために、幼児がなぜ、その行動したり言葉を発したのかを考えるようにしたり、自分以外の人がどのように理解したかを確認するように心がける。時と場合、立場や環境等の違いで物事の見え方考え方が変化することを理解するように心がける。また、記録することで比較検討できるようにする。	保育での記録の重要性の伝えや日誌など記録の結果に対する指導を行った。また、会議などで記録をとることの重要性や促しを行うことで、同じ事象についての他の見方などの気づきにつなげている。
職員間での意見交換や情報交換がうまく行われないう事がある。		保育や園の仕事での意見交換・情報交換は公けの事であるという認識を職員全員で共有し、立場や経験に関わらず率直に行うことを心がけること。強い意見が正しい事でなく、園の規則・規律や社会通念上の正しさを認識した上で、それぞれが意見を述べて十分検討し確認する。なお、意見交換や情報交換の際は個人を責めることなく、内容についてを正当に評価しての発言を心がけること。	目的を明確にし、十分に意見を交換することでより良い成果を得ることに努めるよう職員を促す。
園や教職員に対する保護者や外部からの苦情や不満についての共通認識が図れていない場合に対応が不十分な場合がある。	IV. 保護者への対応	苦情や不満が伝えられた場合は、内容・状況を把握し出来るだけ速やかに上司に連絡・相談すること。それを受けた上司は内容・状況を十分に確認し対応を決定し対処すること。また内容を伝達する対象者を選定し園の運営に支障ないように情報を共有できるようにする。	担当だけでなく上司とともに相互に情報を発信し共有すること。受けるだけでなく自分から積極的に確認することを心掛け行動するように促している。
園としての行事や活動が主となっているため、地域社会の情報の共有や関わりに自分が主体となって考えるのが難しい。	V. 地域の自然や社会とのかかわり VI. 研修と研究	現在も参加している小学校の行事や連携、地域の商業施設等のイベントなどをきっかけとして情報を収集したり興味を持つ事。また、それらを通じて地域社会との協力・連携について考えていく。	小学校の行事(招待会)の参加、地域の行事(スリーデーマーチ等)の参加を積極的に行った。

3. 幼稚園運営の改善に向けた取組む実施項目として

内容	平成30年度改善の取組
※1. 園では学校評価および自己評価の結果を踏まえ保育について再確認を実施します。	この項目群を含む上記の内容にて平成30年度実施しました。
※2. 園では施設・設備・遊具等の安全点検を実施します。また、利用方法やその指導を含め再確認を行います。(遊具使用での怪我発生事例あり)	安全点検を毎月実施するとともに、園児たちに適切な指導が行えるように遊具の安全な使い方を職員全員で確認した。
※3. 園では現在主流となっているスマートフォン等の携帯情報端末対応のホームページにリニューアルします。	ホームページのリニューアルを実施した。
※4. 園では利用が必須となっているICTにおいて、セキュリティー等安全に利用する上でのインフラ整備の一環として新機種パソコンを導入します。(順次代替検討)	旧OSパソコンの代替として新機種のパソコンの導入実施。

その他アンケートの希望内容について

内容	平成30年度改善の取組
「お弁当の回数を減らして欲しい」という要望(複数有り)。	短縮1時保育でのお弁当をパン給食を実施する事で減らす予定です。

平成30年度 アンケート・自己評価・関係者評価

東松山学園(松山幼稚園・松山南幼稚園)

＜教育方針＞

心身共に健全な幼児の成長発達のために、適切な環境のもと、集団生活を通して幼児の自主性を育み、豊かな人間性を養うべく、この時期に必要な諸能力の開発を助長し、時代の変化に対応できる未来の子どもを育てる幼児教育を推進する。

＜教育目標＞

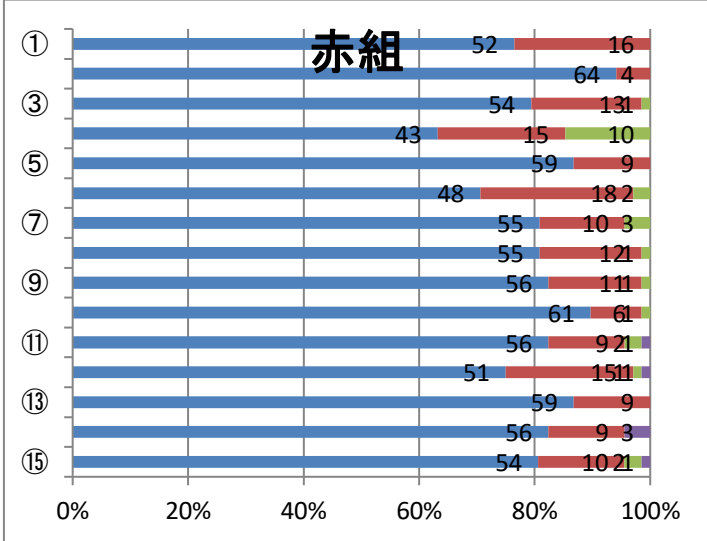
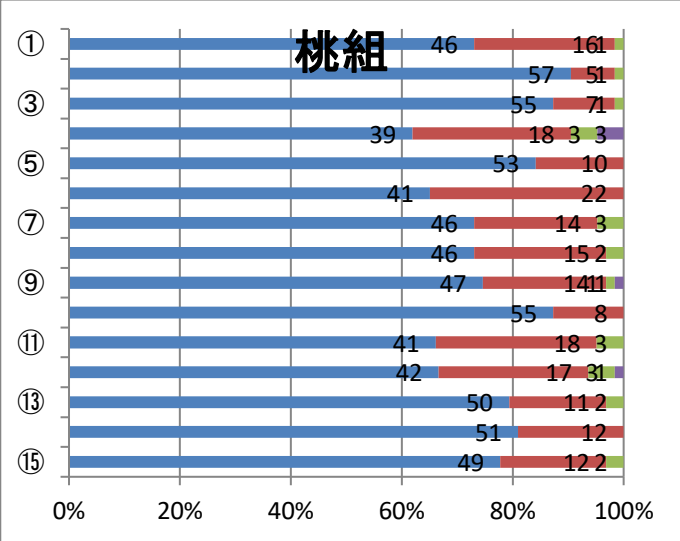
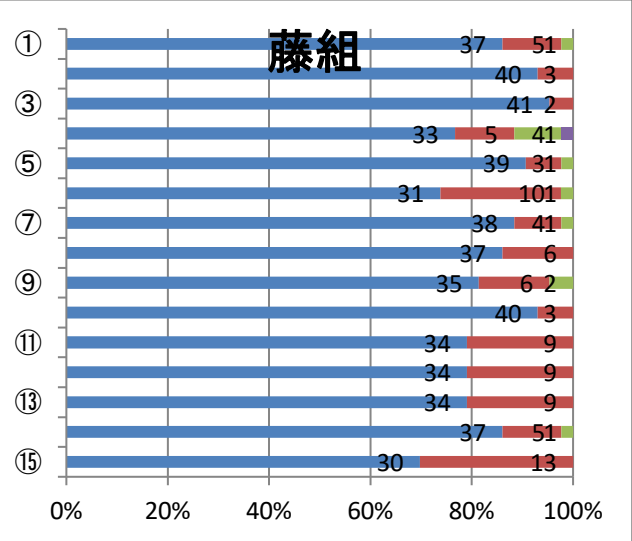
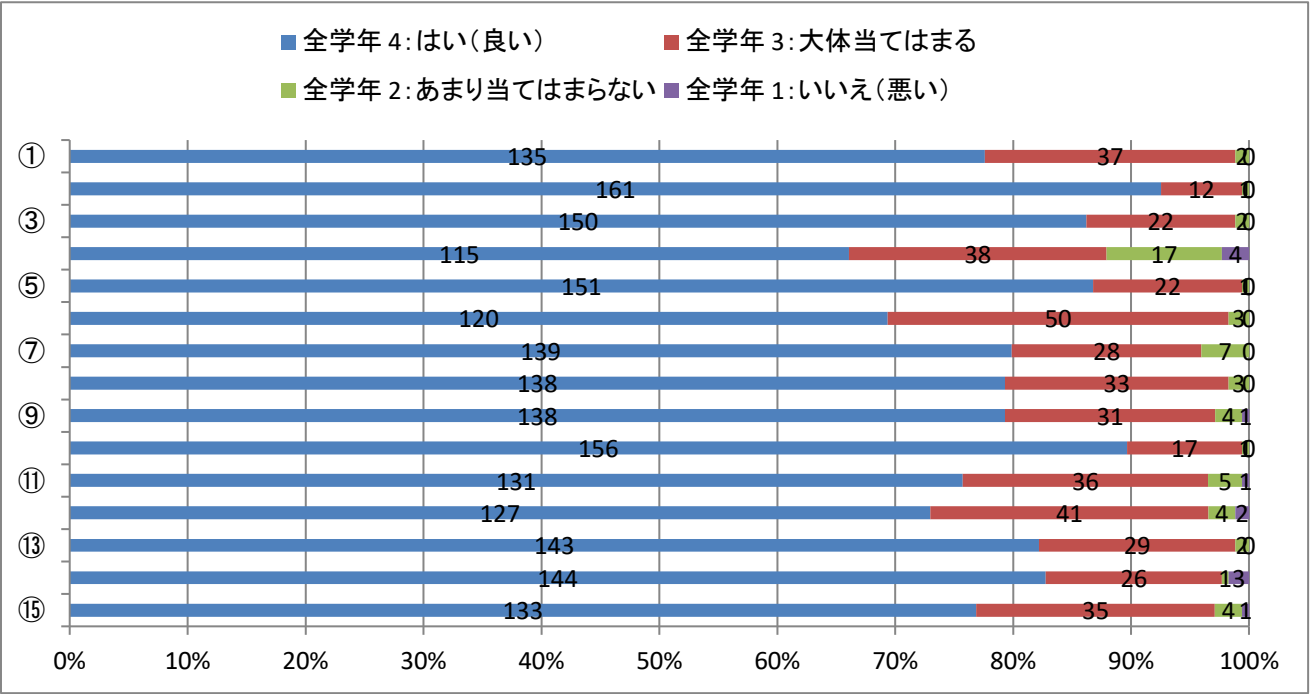
丈夫なからだで元気よく、豊かな心でたくましく、みんなと仲良く遊べる子

ー 以下、松山南幼稚園 ー

1. 学校評価:4段階評価によるアンケート実施

評価項目

- ①お子さんは幼稚園に行くのを楽しみにしていますか
②お子さんは先生を慕っているようですか
③お子さんは幼稚園で友達ができましたか
④お子さんは幼稚園の出来事を家で話しますか
⑤お子さんは諸行事に喜んで参加しましたか
⑥お子さんは幼稚園生活で自主性がめばえたと思いますか
⑦教師は子ども達の良い所を見つけ伸ばそうとしていますか
⑧教師はお子さんの幼稚園生活をよく見てくれていますか
⑨教職員はお子さんの健康や安全確保に努めていますか
⑩幼稚園の雰囲気は明るい印象が感じられますか
⑪幼稚園と保護者の連携がとれていますか
⑫幼稚園は環境設備に配慮していると思いますか(園舎、園庭、遊具など)
⑬幼稚園からのおたより、通信などの事務処理は的確ですか
⑭運動会、お遊戯会などの行事はいかがでしたか
⑮協力員制で行事のお手伝いをして頂きましたがいかがでしたか



「評価の理由」

- No.4について
・園の様子を自ら話そうとしないので少し心配。
・園の話はしないけれど、園で覚えたことは家でしている。
- No.11について
・痣を作って帰宅したことがあったので、担任から連絡が欲しかった。
- No.12について
・雨や雪の日にバス乗り場と玄関の間に簡易的な屋根を付けてほしい。⇒《園の対策》大雨の場合はなるべく濡れないよう、駐車場横の中央園舎横出入口から乗車しています。
- No.14について
・運動会…遊戯の隊形を客席中心に検討してほしい。
・お遊戯機…午前開催希望。午後からは子どもが眠くなるから。歌の曲数が多いと思う。
- No.15について
・協力員の手伝いは、職員の支持を明確にしてほしい。年1回が良い。

「その他の意見」

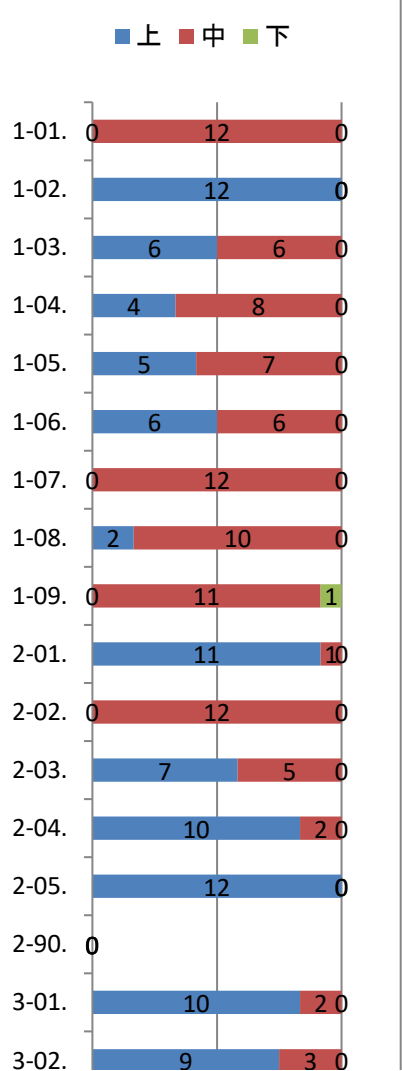
- ・子どもからの園での様子を伺えないので、スマイルを楽しみにしている
・子どもが園に行くのをとても楽しみにしている。
・写真会社を変更してほしい。
・弁当日を全て給食にしてほしい。
・降園時に身支度が自分で出来るよう指導してほしい。
・協力員の際、下の子どもを預かってほしい。(別料金が発生してもよい)
・運動会…保護者観覧席前に先生が待機していて、ビデオ撮影や観覧がしづらかった。
・運動会半日開催
- 《賛成意見》
- 子どもの体力が午後は続かない。
 - 保護者の弁当作りの負担が減る。
 - 毎年暑くて子ども達がバテしてしまうので。
 - 保護者の負担は減る。
- 《反対意見》
- 13時まで食事がとれない。
 - 昼食時は親睦をはかる良い機会。
 - 半日開催だと先生方に負担がかかるのでは。
 - 競技が減るのは淋しい。

2. 自己評価

ー1. 実施項目

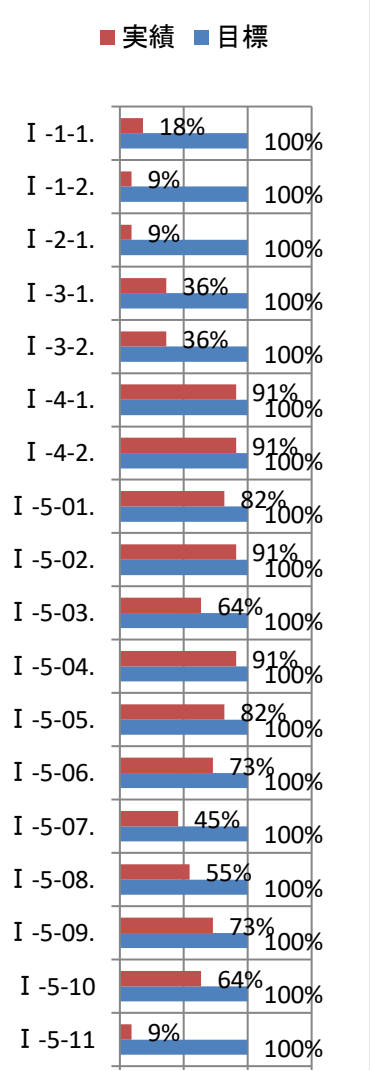
自分磨きチェック:3段階評価(上(良い)・中(普通)・下(悪い))

評価項目
(1)「子ども」について
01.子どもの表情・しぐさ・つぶやきなどを見逃さずに受け止めている
02.子どもの発見を素晴らしいと思い、感動することがある
03.その場限りで子どもを判断せず、継続的に見て判断している
04.子どもの行動に対して、なぜそうするのか心の理由を考えたり、探してみる
05.結果だけでなく、課程や取り組み具合をよく見ている
06.子どもであろうと、適切な言葉遣いを心がけている
07.園の教育方針を理解し、保育の中で活かしている
08.上司の話や文書の意味を理解し、保育の中で活かしている
09.偶然に起こったこと(雪や虹)なども保育の中で活かしている
(2)「保護者」について
01.保護者の言い分を素直に受け止め、否があれば謝り、出来ることは改善していく
02.子どもに関する専門的な情報や知識を有し、保護者の質問や疑問に答えられる
03.子どもの変化や出来事を出来る限り保護者に伝えようとしている
04.保護者との接し方は平等になるように心掛けている
05.保護者と親しくなっても友達のような言葉遣いはしないようにしている
(3)「保育者(自分磨き)」について



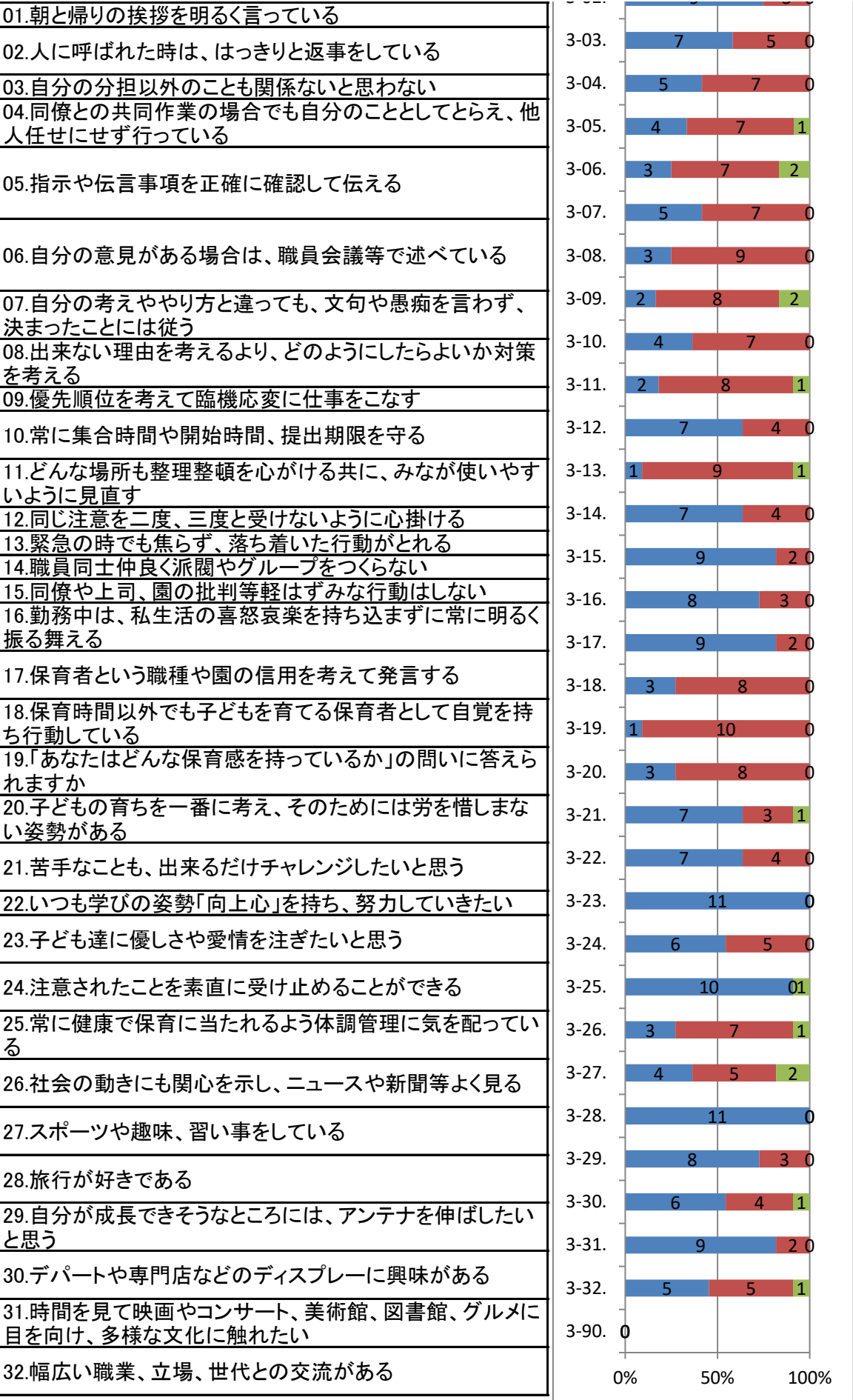
自己評価:達成判断(出来ているものにチェック)

評価分類	内容
I 保育の計画性	1.園の教育理念・教育目標の理解 園の教育理念や教育目標を理解する 園の教育理念に基づいて教育目標について保育者と話し合う
	2.幼稚園教育要領の理解 幼稚園教育要領を読み、保育者と話し合って理解に努める
	3.教育課程の編成 園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成する 園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる
	4.指導計画の作成 指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する 指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする
5.環境の構成	安全で清潔感のある環境を構成する 幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする 遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する 楽しい雰囲気のなかで安心して遊びこめる環境を構成する 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する 幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする 園地、園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす 幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする 季節の変化に応じた環境の構成をする

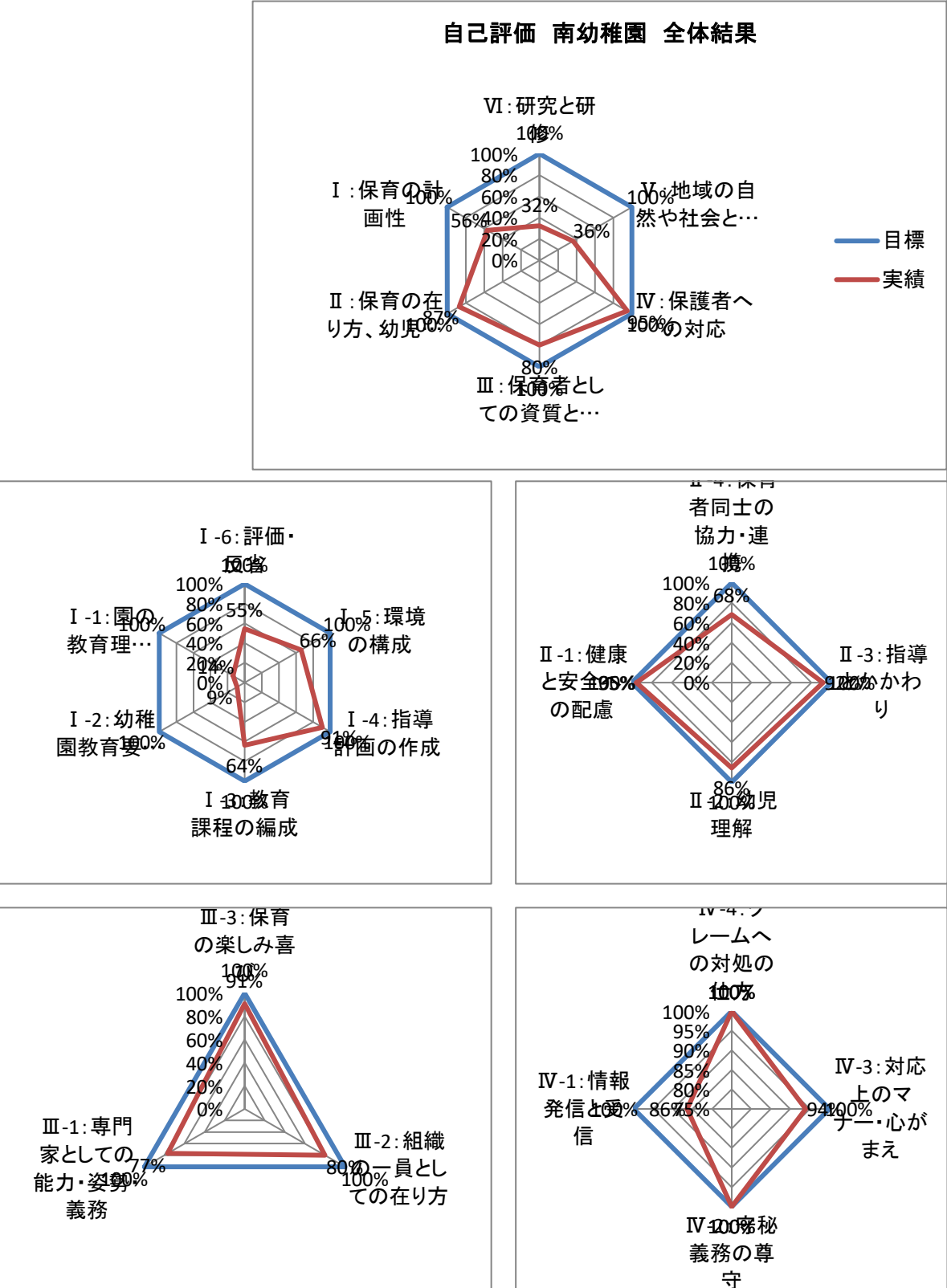
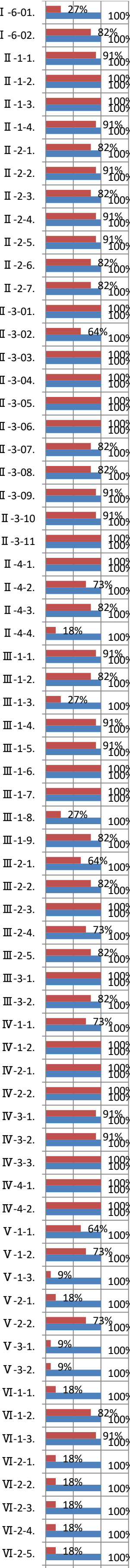


平成30年度 アンケート・自己評価・関係者評価

東松山学園(松山幼稚園・松山南幼稚園)

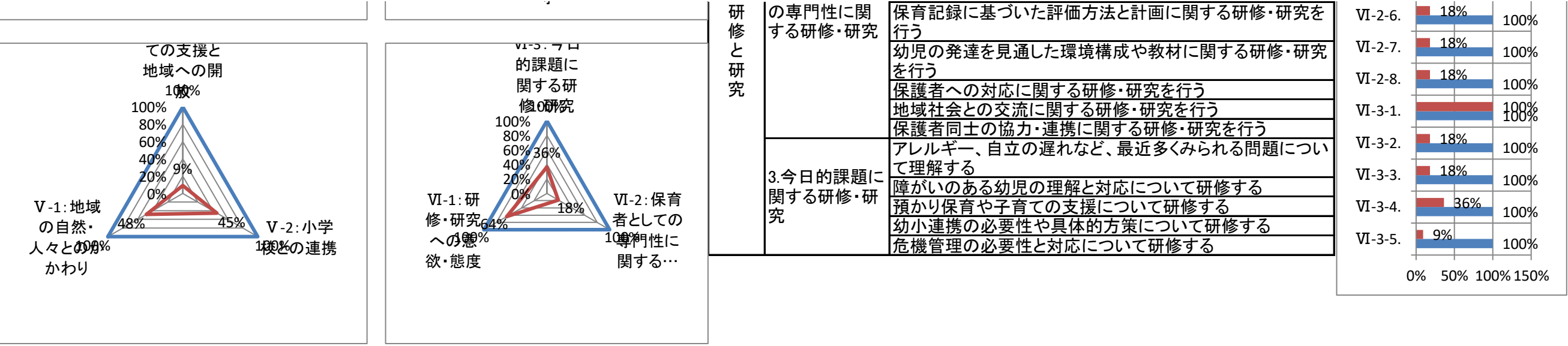


Ⅱ 保育の在り方、幼児への対応	6.評価・反省	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構成をする 自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行う
	1.健康と安全への配慮	自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす 朝の登園時には特に視診を大切にし、子どもの体調が悪くないかを確かめる けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に診てもらうなど適切な処置を行う 園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える 園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る
		一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る 幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる 個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する 幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する 幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知る 幼児の理解のために家庭との連携をとる 幼児の姿を多面的に捉えるように心掛ける
		幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する 幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使う 幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない 善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がける 幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける
		幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う 幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する 幼児自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰っているときには適切な援助をする 幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける 幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしない
		クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がける クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う 幼児のことにについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける 他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫をする
	4.保育者同士の協力・連携	幼児の性格や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解する 保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める 保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける 幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込まないようにする 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする 服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける 職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る 園の重要書類は持ち出さない 締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る
		教職員全員で一つのチームであることを自覚する 他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努める 子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする 当番や役割による仕事は確実にを行う 園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さない
Ⅲ 保育者としての資質と能力	1.専門家としての能力・姿勢・義務	幼児の成長を自分の喜びと感じる 幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる 保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする 保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける
	2.組織の一員としての在り方	保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う 個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない 日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにする 電話は、相手が見えないため誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける 保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する
		保護者からのクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をする クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する
	3.保育の楽しみ・喜び	地域の人々と親しくあいさつや会話をかわすように心がける 地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める 地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする
	4.情報の発信と受信	小学校の教育内容について理解するよう努める 地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ 子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する 子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する 自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う 自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する
		幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う 記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う 教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う
	5.地域のかかわり	1.研修・研究への意欲・態度
	Ⅵ 2.保育者として	



平成30年度 アンケート・自己評価・関係者評価

東松山学園(松山幼稚園・松山南幼稚園)



3. 自己評価に対して今後取り組むべき課題

課題	対象領域	取り組み内容
園教育理念及び新教育要領についての総合的な理解不足	I. 保育の計画性-1. 園の教育理念・教育目標の理解-2. 幼稚園教育要領の理解	今年度実施された新教育要領の研修内容を各自で理解を進めると共に、職員間でも「10の姿」を踏まえた保育について実践の場やディスカッションの場を設けることで理解を深めていくこと。また園教育理念を含めた総合的な理解を深めるため理事長や園長からの指導を行うこと。
園教育課程についての理解と実践の場での適応の不十分	I. 保育の計画性-3. 教育課程の編成	教育課程の編纂において、園教育理念や新教育要領との親和性を高め、各々が理解しやすく実践しやすい内容とすることで適応力の向上に繋げていくこと。
園の地域での関りが不十分で、地域の情報が不明な状況	V. 地域の自然や社会とのかかわり-1. 地域の自然・人々とのかかわり	地域での関り方として、特別な取組ではなく近隣で接する人々に対しての挨拶や声かけを積極的に行うように心がけること。また、地域の情報等は市報の閲覧や市で用意している観光情報やハザードマップ等から情報を取得する。
小学校が行っている学習内容や、行事などについての内容の理解が不十分。	V. 地域の自然や社会とのかかわり-2. 小学校との連携	小学校の学習指導要領など(解説書等)を取得し(特に低学年について)理解を深め、保育内容について小学校との接続も視野に入れて考慮していく。また、小学校の招待会などに参加することで行事や授業への興味関心を促す。
教育課程や指導計画に基づいて保育を行う場合に、保育に関する理論(幼児の発達・環境構築・実践方法)を活用するための知識経験が不十分。	VI. 研修と研究-1. 研修・研究への意欲・態度-2. 保育者としての専門性に関する研修・研究	保育に関わる学習の機会を各々が設けることで知識を向上し、理論を実践できるように内容を精査し実際の保育にあてはめていくことや、研修会に参加することで事例を研究することにより知識や経験の向上を図る。

4. の一環として → 幼稚園運営の改善に向けた取組む実施項目

- ※1. 園では学校評価および自己評価の結果を踏まえ保育について再確認を実施します。
- ※2. 園では運動会行事など従前からの実施内容が園児や保護者の負担に繋がっている内容を検討し改善を行います。
- ※3. 園では保育以外でのサービスの提供や安全性の向上の為、バスのロケーション情報の提供を行います。
- ※4. 園では子育て支援の一環として早朝預かり保育(7時30分～8時30分)を今年度から実施していますが、引き続きの実施と内容や実施日の充実を検討します。
- ※5. 園では子育て支援の充実に向けて2歳児預かりを実施します。

学校評価シート（学校関係者評価）

松山南幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 平成31年2月25日（月）

9：30～10：00

出席者（ 4 ） 人

評価委員（ 4 ） 人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

自己評価をグラフ等に可視化することで、園としての課題（今回は「地域や関りの部分」）を選択して挙げているなど、園全体で課題を明確にして主体的に取り組もうとする姿勢が感じられることから、適切であると判断します。

2. 評価結果の内容は適切であったか

自己評価・自分磨きのそれぞれの項目に対して客観的に自己を評価していて、教職員が保育に真摯に向き合っている様子が感じられることから適切であると判断します。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

新教育要領で提示されている「10の姿」を踏まえた課題を取り入れており、これから幼稚園が取り組むべき課題を明確に示しており、適切に設定されていると思います。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

最近の国の政策としても取り組みがされており、社会的な要望の高まりもある保育の充実について、早朝預かりや未就園児教室の実施や、また2歳児預かりの開始など子育て支援の充実に取り組むこと等から、適切に設定されていると思います。